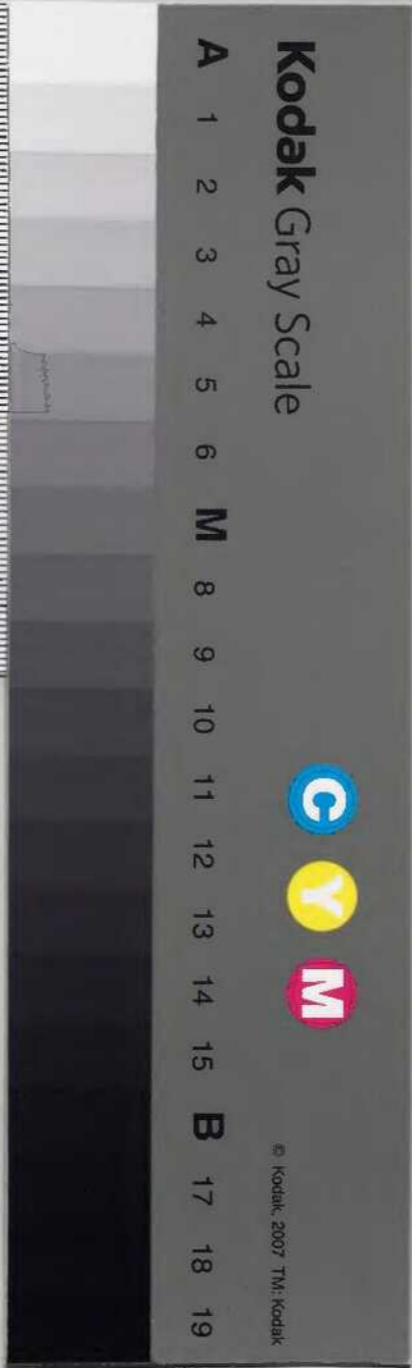


寛永諸家譜

清和源氏庚八冊之内  
義光流之内武田流

|      |            |
|------|------------|
| 内閣文庫 |            |
| 番號   | 和 20199    |
| 冊數   | 186 ( 41 ) |
| 函號   | 76 1       |





内藤

米倉

栗原

大井

仁科

駒井

寛永諸家系圖傳

清和源氏

庚五

義光流

内藤

若別 武田 庶流

義光四代

信義

武田太郎

後河守

淺草文庫

信光

武田五郎 伊豆守 石和五郎

信時

五郎次郎 伊豆守

時綱

信政

六郎

小五郎

信宗

孫六

信武

孫六 伊豆守

將軍 為氏 御

信

治部少輔 伊豆守 後 鹿苑院殿

信在のぶなり

治部少輔 伊豆守

信守のぶもり

治部少輔 伊豆守

信繁のぶしげ

子なるゆへに家督と申信繁に譲り

治部少輔 伊豆守

膳定院殿なるびに普廣院殿に譲り

信榮のぶさか

義九郎 治部少輔 若列比守わかじりひしゅり護ご

普廣院殿より子なるゆへに才小孫さいせうそん

信賢のぶけん

治部少輔 大膳大夫 陪たひ奥守おくもり

普廣院殿及慈照院殿より譲り

子なるゆへに才小孫

國信

善次郎 治部少掾 大膳方史

慈照院殿 常陸院殿 小治子

信親

善次郎 治部少掾

父小先とらとらとらとらとら守

元信

善次郎 伊豆守 大膳方史

元光

善次郎 伊豆守 大膳方史

慈照院殿 法住院殿 惠林院殿 万松院殿

了り了り了り

信豊

善二郎 伊豆守

義統よしのぶ

彦二郎 大膳大夫

信由のぶゆき

三郎 上総介

信宗のぶむね

彦五郎 右衛門佐

元次もとつぐ

孫八郎

豊臣秀吉とよとみひでゆき此こゝより小こかろろががななららぬぬ

信重のぶしげ

彦五郎 宮内少輔

系けい

内うち後ご内うち苑えん助すけ

常とこにに款くわん道だうととこのこのみみくく系けい紙かみとと師しとと守しゅ

若わ列りやく一いつ一いつ信のぶとと

家いへ傳でん小こいいくく元もと光みつ子こありありとといいどもどもななららぬぬ

てて許ゆる容ゆるせせずずあるある人ひとははとと世よにに育よくととひひとと

大塚ノ子ノミクシノ内友氏ノ稱也代々  
若列ノ領ノミクシノ武田ノ家光ト云ル

重政

筑前守 若列天下此城也

越前守 一撥起ト信長是也

代此重政若列此兵ト云ク是

一云寸

重則

伊賀守

直兼

兵庫

重為

弥左衛門尉

之實

八左衛門尉



改高かこう

筑前守

秀吉此時若列没落より少人改高浪  
人とな家

系

筑後守

丞治じょうぢ

元能もとよし

左助

三郎右衛門

長繩ながひも

大將 生國若列

若列乱後丹羽五郎右衛門長秀の孫也

となるゆへ是より属一姓名とわらふこと

棟理長清と号すこと度々戦場におわす軍

功あり長秀感状とすなり

長元元年四月十九日城列より死去

四十五歳

法名見生ほつなみぶ

長教ながのう

傳后清門 生母若列

東照大権現とうしょうだいこんげんのつゝつ祖そ父ちち政まさ高たかと云いふ

めきめきおおののふふよりより長なが十九年九月廿二日

石出いしでささききくくおお湯ゆ——なる

大坂おおさかと度とどれれ御陣ごじんにに供たまは

家傳けだん此こゝ舊記きゅうきありあり列りゅう没落ぼつらくの時とき終失しんじつ

と云いふふれれどもども先せん祖そよりよりおお傳たれれたたりり長教ながのう

いまいまはは是こゝとと所ところ持もちとと

長富ながとみ

八右衛門 生國持列

寛永六年六月十日

將軍家と縁ゆかり——なる

長茂ながしげ

傳之丞

重純

石見守

政貞

又十郎 法名京湖 母八達見氏  
弟列無乳の後浪人ともいへる京師小僧

政系

山三郎

政勝

新十郎 宮内少将

豊臣秀頼より後ふ

慶長十九年大坂幕城の時政勝与力

三十騎と引わく戦功あり秀頼に檢使

織田左門後友又と法徳陣と巡見して

政勝の事と云々秀頼より信じて是より

て別り陣場と云々一与力二十騎を

あがりり都合五十騎に与り

翌年大坂再戦の時五月六日改修本村  
長門守より屬して与力五十騎と引か  
矢見此處にいりては乃よ討死時  
二十一歳

直信

信長

初ハ東福寺此僧なり

元和六年初く江戸小三より

將軍家におしなりて御あよ作す

寛永四年

御命小よりて酒井權後也

忠勝宅よりて還俗して信長と号す時

一忠勝刃脛指とていへて大坂江利勝

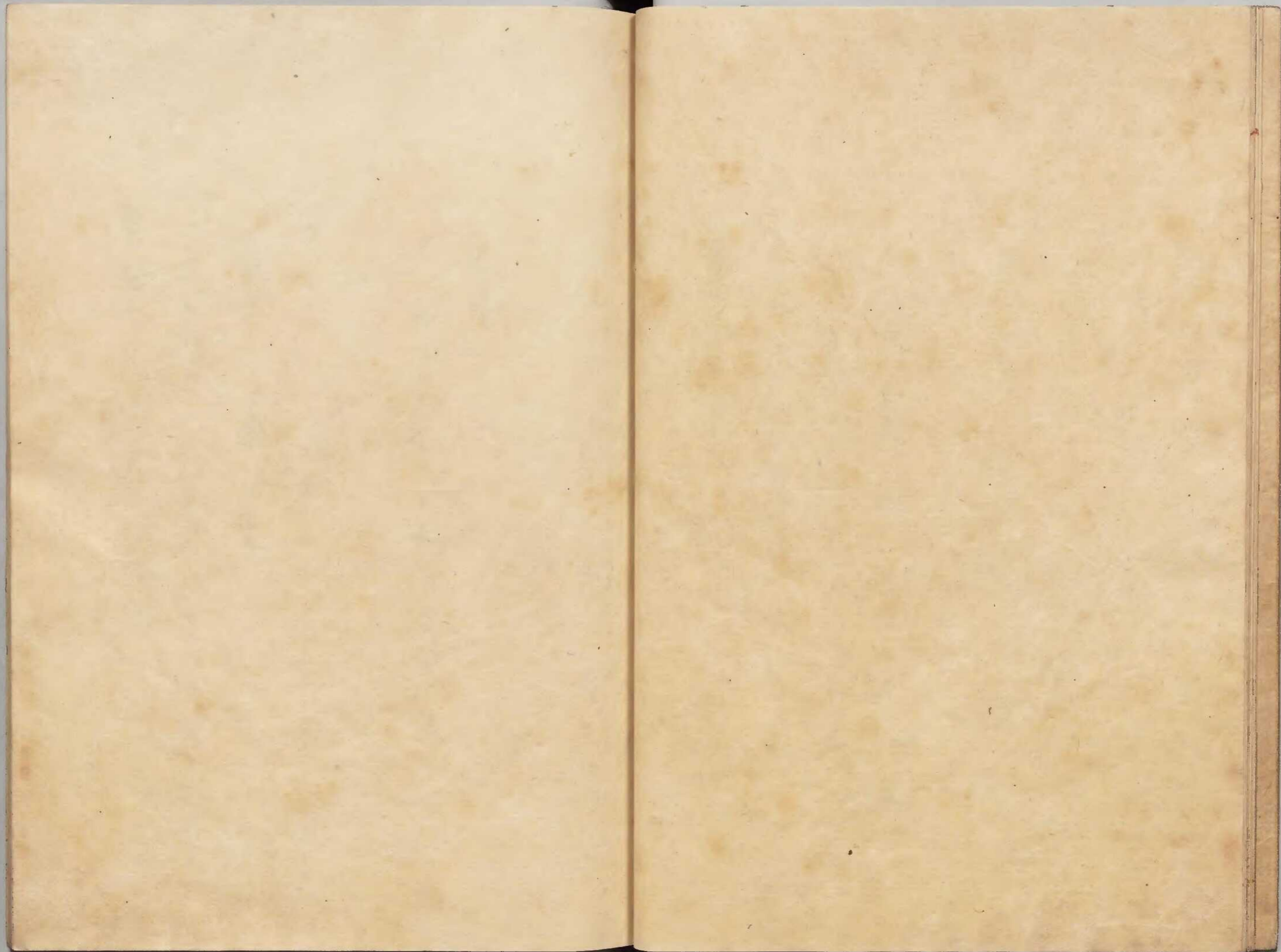
稲葉丹後守正勝とて又刀をさびて禮と

あふ

同六年下総水戸の内よりて知りてた

戸名

家紋七条下友丸の裏に内乃字



内藤

家<sup>ども</sup>傳小いしく甲列武田此流なり

●正重

源助 生國甲斐

武田信玄に侍る者なり出立候

東照大権現よりつとむる

正次

源右衛門尉

生國同前

大権現

名法院殿より一法之人なり

正統たき

源右衛門尉

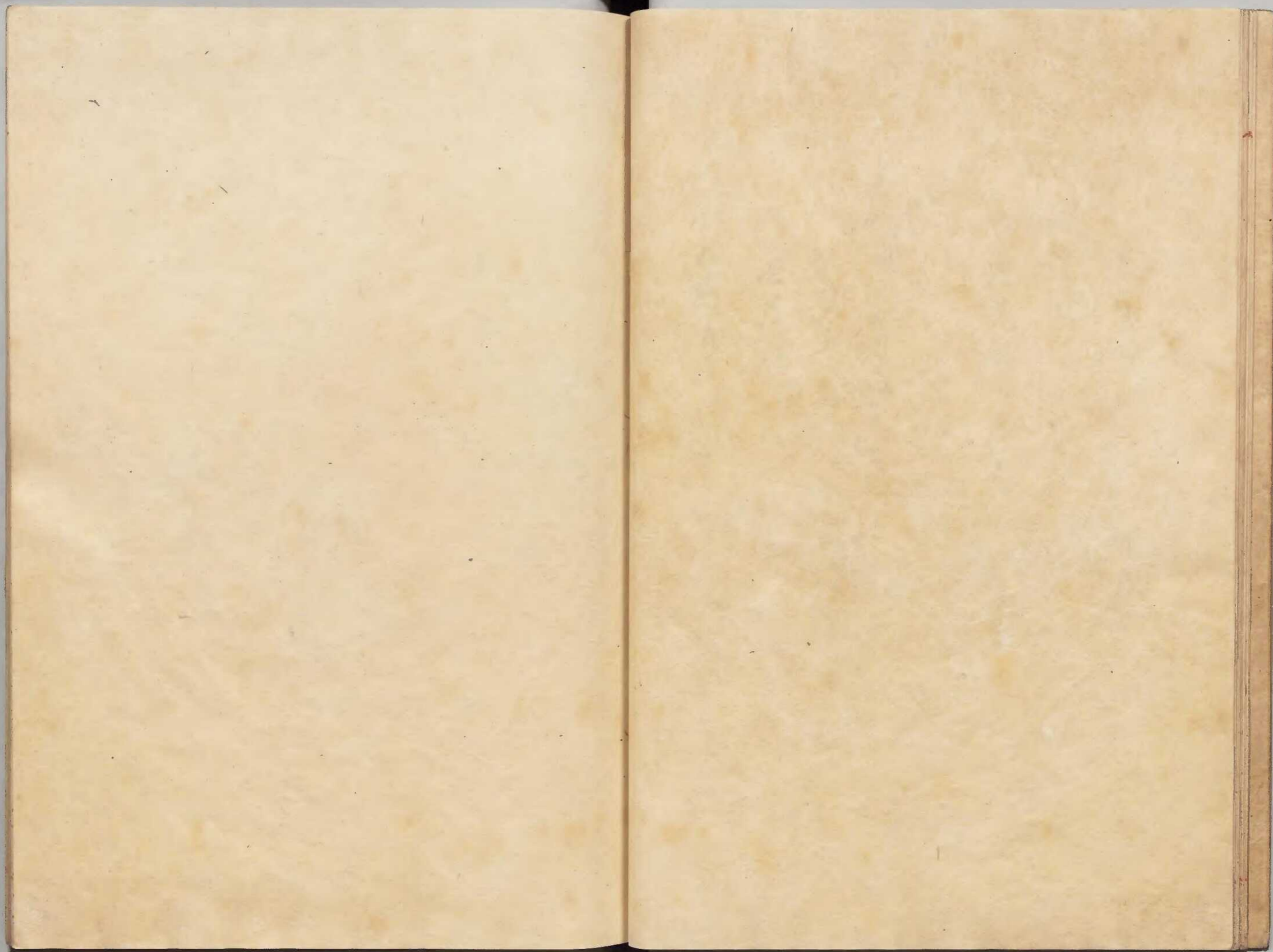
生國後河

名法院殿

將軍家より法之人なり一法地八百五十石

お領と

家紋あざな上かみの丸





米倉

● 宗继

丹後守

生國甲列武川

武田代々に侍る

天正三年五月長篠合戦乃時討死

忠继

主計助

生必同前

天正十年三月勝頼生害一甲列没  
敵のと記信長とふら令とく一甲  
列浪人とり一ゆふる禁制の  
申あつにむらひるふ

東照大権現成瀬若古橋つよ命とて甲列  
市川よかわく忠継とり出されを列  
相山へりりまのびくぬりあるをこれ  
より釣命とてふらむら地よ  
おしむ

同年六月信長自殺れと記小糸氏並  
甲列をとまりしむ

大権現忠継と相山よりめされく  
甲列へおむき計策とめぐるすを  
れ命とてふら甲列よ殺向一武川  
の兵ども御旗下よ属し清を殺す  
御先手へ人数と指こも氏直が士卒  
小治よたてごりしと遊教一御功とぬ  
まんづるゆ御直判れ御書と下る

おまを郡別と被走廻り申祝名は名を  
相後弥と申抽忠信と申候

七月十日 家康 御判

本倉三斗助  
折井市兵衛

三三後

大権現真面表へ諸士とて候はるる時  
池是い〜と申上候人として書子と後  
府へ申上候はよ〜又御申判此御書と

給系

今度程人〜申越〜名を池是  
差當り外兄弟親類後列差越無二  
〜所寔感慨と申去秋名お真面表  
万事入情走廻り大久保七郎右衛門  
披露は是又と悦喜と申細與人の  
〜候〜

正月十日 家康 御判

武川 宿申

天正十八年關東泚入玉此時信年小作  
一武列鉦形よおわく此地七百五十石  
泚年寸

天正十四年四月病死時よ五十六歳  
法名珠元

信継

六郎右衛門 丹後守 生玉同お

天正十年甲列泚入玉の時信継

新く泚忠節とて子にふりて

大指現へ石出さ家

天正十八年關東泚入玉の時信年

列一相列よおわく此地よおん

信継實ハ宗継が子なり兄忠継子なり

小のく信継と厚しなり子守忠

継死してとふら家督を信継に承ハ

り泚使着此役と勤むを後

大指現此命よふりて父が名とて

丹後守とありしに又

台徳院殿に侍しふに伏見大坂城

おろし御金奉行となす

將軍家此御時にも同し御役と勤む

寛永十三年四月病歿八十九法名道心

永時

助右衛門 生没同前

天正六年

大権現と称しなり大沙耨と勤む

台徳院殿より

將軍家より御まじりし御代官となす

寛永元年二月死す時五十五歳

法名道善

重種

平度 生没同前

天正八年

大権現と称しなり大沙耨と勤む

台徳院殿

將軍家より後之く御代友と勤む

種勝しゅくしょう

理大史 生必武義

寛永七年 鈞命きんめいよりして大御者

とならふ

同九年 御切米みきりまいと後ふ

同十年 沙加増さかぞへと後ふりて此より古ふる

御切米みきりまいと知ちりりよりあつて此後このちと

義継ぎけい

忠古徳門 生國甲列

文祿元年

台徳院殿よりして大御者と勤む

元和元年五月七日大坂合戦のとき

討死時より七歳 法名ほふな宗義

改<sup>カウ</sup>継<sup>ケイ</sup>

助右衛門 生<sup>ナマ</sup>武<sup>タケ</sup>茂<sup>モ</sup>

永<sup>エイ</sup>時<sup>ジ</sup>が<sup>ガ</sup>忠<sup>チウ</sup>と<sup>ト</sup>信<sup>シン</sup>行<sup>コウ</sup>

寛永八年大御者となる

上<sup>ウ</sup>友<sup>ユウ</sup>

庄左衛門 生<sup>ナマ</sup>武<sup>タケ</sup>茂<sup>モ</sup>

將軍家へ侍る

實<sup>シヨク</sup>ハ柳<sup>ヤナギ</sup>澤<sup>サハ</sup>庄<sup>サハ</sup>左<sup>サ</sup>衛<sup>ヱ</sup>門<sup>メン</sup> 長<sup>チカ</sup>久<sup>キウ</sup>が<sup>ガ</sup>子<sup>コ</sup>なり 永<sup>エイ</sup>時<sup>ジ</sup>

年<sup>ネン</sup>一<sup>イツ</sup>な<sup>ナ</sup>び<sup>ヒ</sup>く<sup>ク</sup>子<sup>コ</sup>守<sup>シ</sup>長<sup>チカ</sup>久<sup>キウ</sup>上<sup>ウ</sup>友<sup>ユウ</sup>が<sup>ガ</sup>伯<sup>ハク</sup>母<sup>ボ</sup>也<sup>ニ</sup>

豊<sup>トヨ</sup>継<sup>ケイ</sup>

右大史 生<sup>ナマ</sup>國<sup>クニ</sup>同<sup>ドウ</sup>前<sup>ゼン</sup>

武<sup>タケ</sup>田<sup>タ</sup>信<sup>シン</sup>玄<sup>ゲン</sup>勝<sup>シヨウ</sup>頼<sup>レン</sup>父<sup>フ</sup>子<sup>シ</sup>よ<sup>ヨ</sup>つ<sup>ツ</sup>人<sup>ニン</sup>數<sup>スウ</sup>度<sup>タク</sup>軍<sup>クン</sup>功<sup>コウ</sup>有<sup>ユウ</sup>

天正十年小糸氏直甲列へ侍る

~~~~~

大權現御先<sup>オホケンゲンノミサキ</sup>年<sup>ネン</sup>へ<sup>ヘ</sup>人<sup>ニン</sup>數<sup>スウ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

時<sup>トキ</sup>茂<sup>モ</sup>川<sup>カハ</sup>の<sup>ノ</sup>軍<sup>クン</sup>士<sup>シ</sup>よ<sup>ヨ</sup>く<sup>ク</sup>り<sup>リ</sup>小<sup>コ</sup>沼<sup>ヌマ</sup>井<sup>ヰ</sup>小<sup>コ</sup>屋<sup>ヤ</sup>と<sup>ト</sup>改<sup>カ</sup>

屋<sup>ヤ</sup>づ<sup>ヅ</sup>る<sup>ル</sup>れ<sup>レ</sup>に<sup>ニ</sup>伊<sup>イ</sup>東<sup>トウ</sup>三<sup>サン</sup>右<sup>ウ</sup>衛<sup>ヱ</sup>門<sup>メン</sup>米<sup>メ</sup>倉<sup>クラ</sup>在<sup>アイ</sup>

な<sup>ナ</sup>ら<sup>ラ</sup>び<sup>ビ</sup>よ<sup>ヨ</sup>豊<sup>トヨ</sup>継<sup>ケイ</sup>等<sup>トウ</sup>三<sup>サン</sup>人<sup>ニン</sup>首<sup>ウチ</sup>級<sup>キウ</sup>と<sup>ト</sup>い<sup>イ</sup>は<sup>ハ</sup>し<sup>シ</sup>る<sup>ル</sup>

大指現此御陣甲列此新府人乞と歎  
伊東三右衛門なまび小豊継小糸家此  
乃兄二人と討取此御威なめなま  
して四領の地と給る

同十二年小牧陣同十三年真田陣守  
功と上げし人として妻子と後府  
歎ど無二の忠節と給る武川旅  
同く御立判の御書とたまはる  
同十八年小田原陣に侍せし

同年武列陣歎しおわく多地と給る  
しびく此軍幼あ家此御書乃此  
と給るなり領地より侍候と

同十九年九郎御陣に侍せし  
是又長五郎関ヶ原此陣此と見

名徳院殿より志すびいなま真田御陣にお  
めし

元和元年甲列の心よく本領と給る  
甲府此城の御書と勤し



同年大坂治陣乃時

大指現代鈞命いんぎんとてけしる南みなみの城じやうとて

防固ぼうこ守りし渡わた一いっ大坂表おさかへ出でて

大坂よりかわく金堀かねほりとせきく城じやうなり

し野のと入い戸野と又また三浦さんぼと共とも継ついで是こゝ

奉行はうぎやうと

寛永四年病死時より七十八歳迄名

日にち秋あき

正ただ継ついで

右大夫 生国同前

元和元年大坂よりかわく

大指現と流ながしをわ御ご杖しやう持もち方かたとて

同三年

台たい徳とく院いん殿でん代だい嚴げん命めいとてしる忠ちゆう長ちやう心しん小

侍しやう

寛永十年

為軍家と稱し奉りて北城守と爲り  
同十七年八月沖藏の毒を勅む

満継

加右衛門 生國甲列

武田信玄勝頼父子に以て之を軍功あり  
天正十年武川宿小くすわ小治村小治と  
せめ屋ふり小糸方れもの見と討ち殺る  
軍功ありと云ふ

大權現本願と爲りて事ハ豊継が傳小あり

同十八年小田原沖陣に供奉と

同年武別鋒形りかたの領地と爲り

軍功ありと云ふ沖藏と云ふは領地と

居候

同十九年九部陣に供奉と

慶長五年

台徳院殿より去るのひなり真田沖陣におも

むく

同八年甲列りおわくり四し八はちと給たまり甲府こうふ  
乃城のの御ご書しよと川がわと心こころ

同十九年元和元年大坂おさかと度たびの忠ちゆう陣じん  
借かります

同八年病やま死し時とき六十八歳ろくじゅうはちさい 法名ほうな日ひ繼つぐ

信のぶ繼つぐ

如右ごと藩はん門もん 生國むくに茂しげ茂しげ

元和元年大坂おさかおわく

大権おほごん現げんと糸いと一いつなりなり河が杖ふし持もち方かたと給たまり

同三年後ご列れつよよおおいいしし忠ちゆう長なが郷きやう小こつつふ

寛永十年

将軍しょうぐん家けと糸いと一いつなりなり河が杖ふし持もち方かたと給たまり

同十七年八月御ご書しよと勤きん心こころ

家紋けもん割わり菱ひしやう

● 信友のとも

柳沢靱負やなぎさわ 生國甲斐 柳沢又源氏也

武田信玄たけだよりつとく上別えい前の城しろより

おのゝく討死うちはし

長俊ながとよ

兵部 生國河内

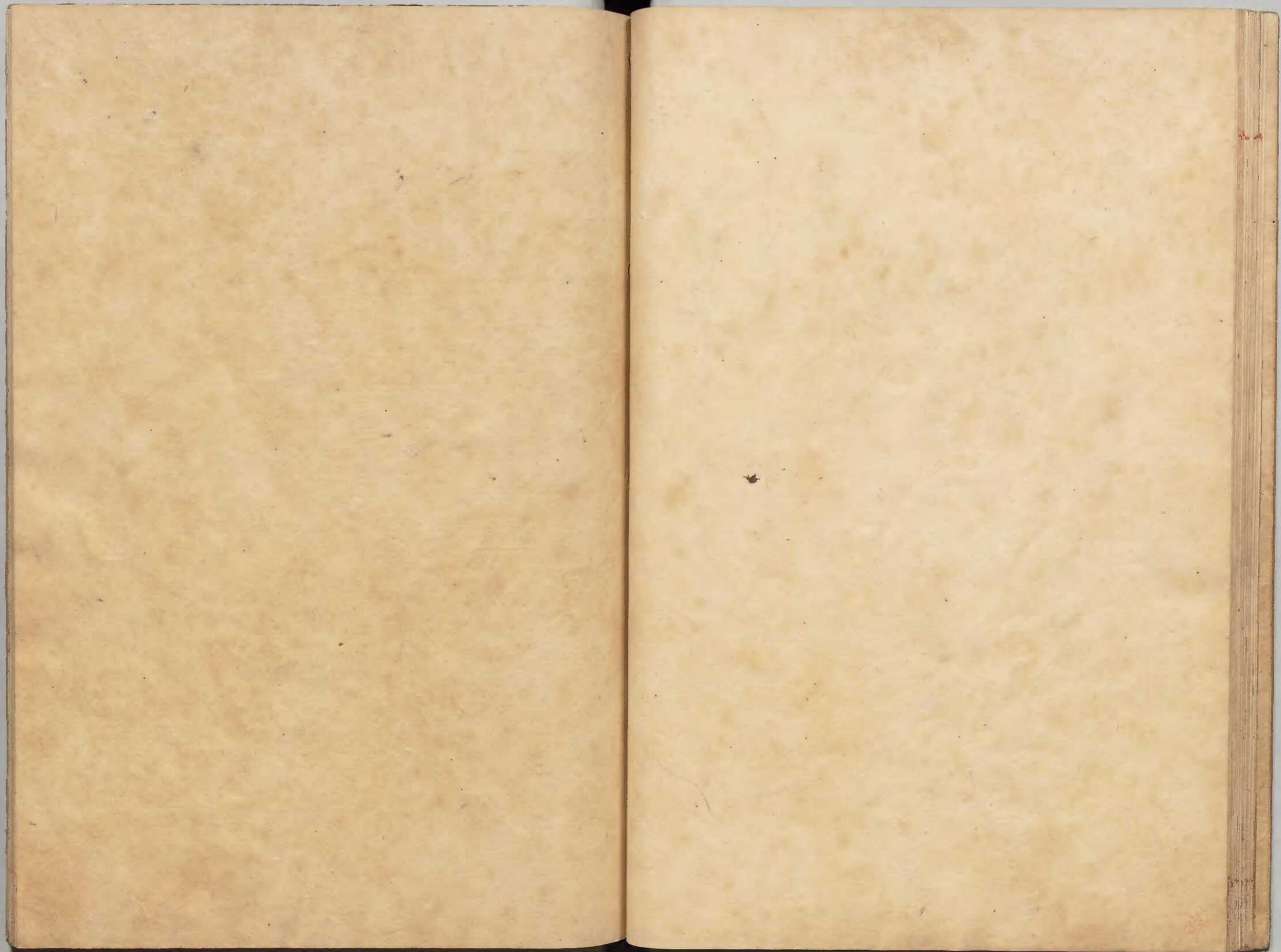
天正十年

大樽現おほづゑより所ところ々々さまざま河内

長久

庄左衛門

病やまありたも川がわて所ところ々々さまざま河内



栗原あしはら

● 信成のぶなり

次郎

刑部大輔

甲斐國乃与護

武田右衛門信義八代の孫え

武續たけつぐ

十郎

栗原乃元祖もと

生國甲列

信通しんつう

出羽守

信明しんめい

出羽守

信遠しんえん

民部少輔

信友しんゆう

伊豆守

信重しんじゅう

伊豆守

信方しんぽう

半五郎

信賴しんらい

伊豆守

政長まさなが

日向守

生國甲斐

天正十年

甲列没落の後あがらふちのちのち

東照大権現と縁ゆかりをり回願まがねがねするにあ

甲列あがらふち長井ながいの郷ごうとお願まがねがねと武列ぶりやく横山よこやま

よおろく病死

法名道参どうさん

忠重ちゅうじゅう

大學助

生國同前

忠重ちゅうじゅう代しろりしりく回願まがねがねとわしり武

列りやく兎う玉たま郡ぐん用もち土つち村むら乃の内うち同どう國くに横山よこやま郷ごう

れらら六むおろく立た百ひゃく石いし此こゝ地ちとらま

りわろれらら横山よこやまとわしりしりく下した総そう玉たま

香取かとり郡ぐん小菅こすげ村むら乃のしりしりくお願まがねがね

長なが五ご年ねん開ひら原はら津つ陣じんののしり



大権現の供を乞ふ

同七年江戸より病死時五十七歳

法名証覺

清次

忠言清 生國茂翁

元和七年大坂御妻と勤む

同年六月廿日病死時三十五歳

法名順性

忠正

又左衛門 生國同翁

忠正四歳乃時 釣命より父清次が

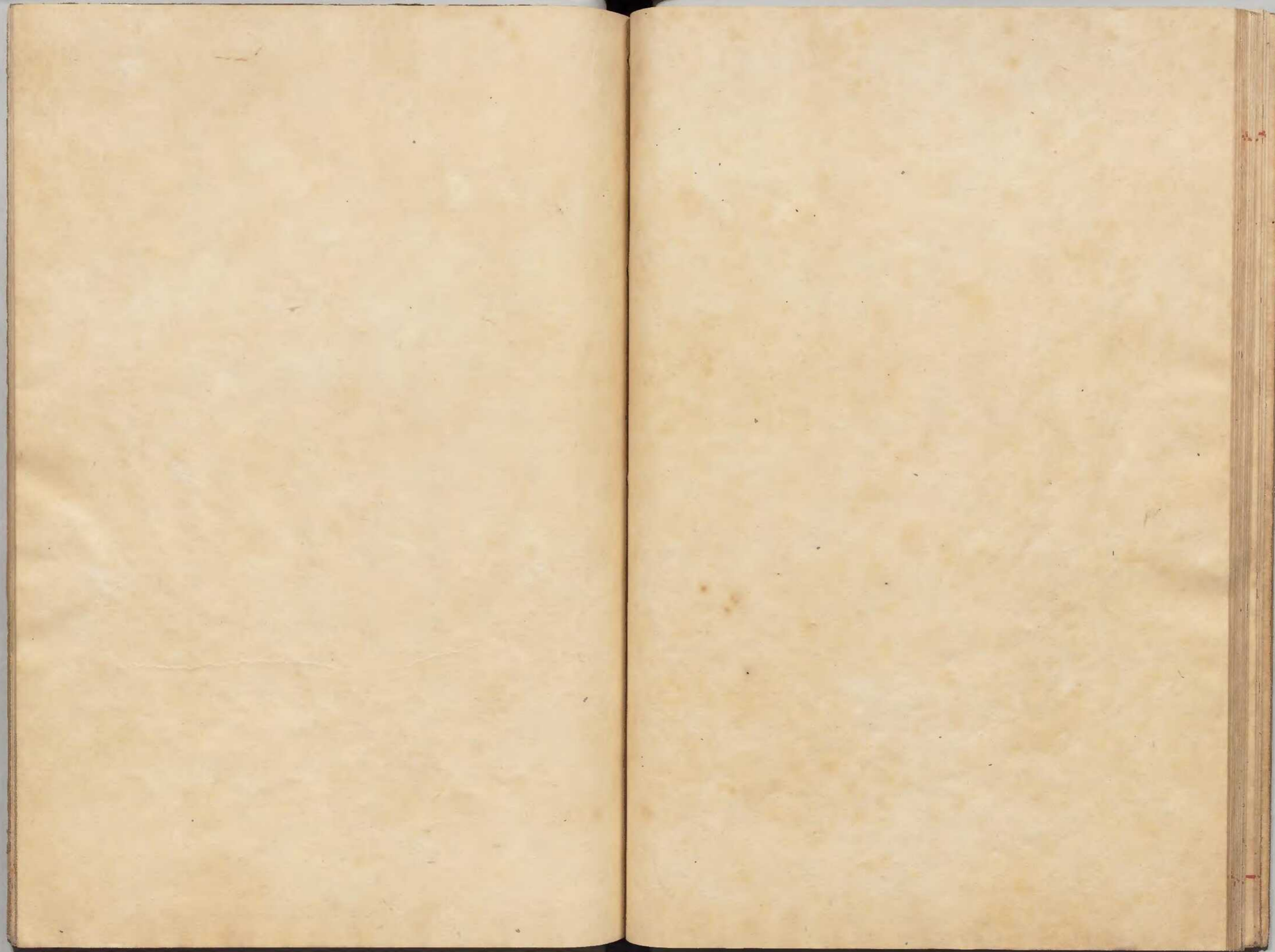
遺跡を承ぐ

寛永八年

將軍家と係しを乞ふ

同十年より御妻と勤む

家紋割菱



● 信忠

氏田五三郎

大升

氏田左郎信義六代の後胤なり  
け系國河産乃次方と相遠れ事あり  
といふも志づらく家傳とのす

信安 のりやす

小五郎

信時 のりとき

五郎次郎

信綱 のりつな

五郎二郎

時綱 ときつな

六郎

信ふ のりふ

孫六

清淨真院と号す

信武 のりぶ

彦六

雪深照公

信成 のぶなり

刑部大輔

雪窓 継統院と号す

氏清 うぢきよ

伊豆守

系 なげ

大井 隆奥守 たけのむねのり

公信 こうのぶ

薩摩守 さつまのり

為猶 なるゆ

信濃守

修理 大史 しゆり たいし

系

上野介 うぢのすけ

刺髪して 玄鉄斎と号す 生國

甲斐 かい

法名 唐壽 ほうなま とうじゆ

武田信虎が舅なり先祖より代々列  
る邦と領知す

虎昌

監物 因幡守 生国同前 勝頼より不  
天正七年十二月十日病死八十一歳  
一溪系義と号す

昌次

庄兵衛 生国同前  
河窪与右衛門 石成少く大久保石見守と  
以て後列りかた

東照大指現へ石出に孫福  
昌次長十五歳六十五歳少く病死法名  
喜叟全悦

昌義

長右衛門 生国同前

長文十二年七月廿六日大炊以利勝次  
とす

台徳院殿と許錫と

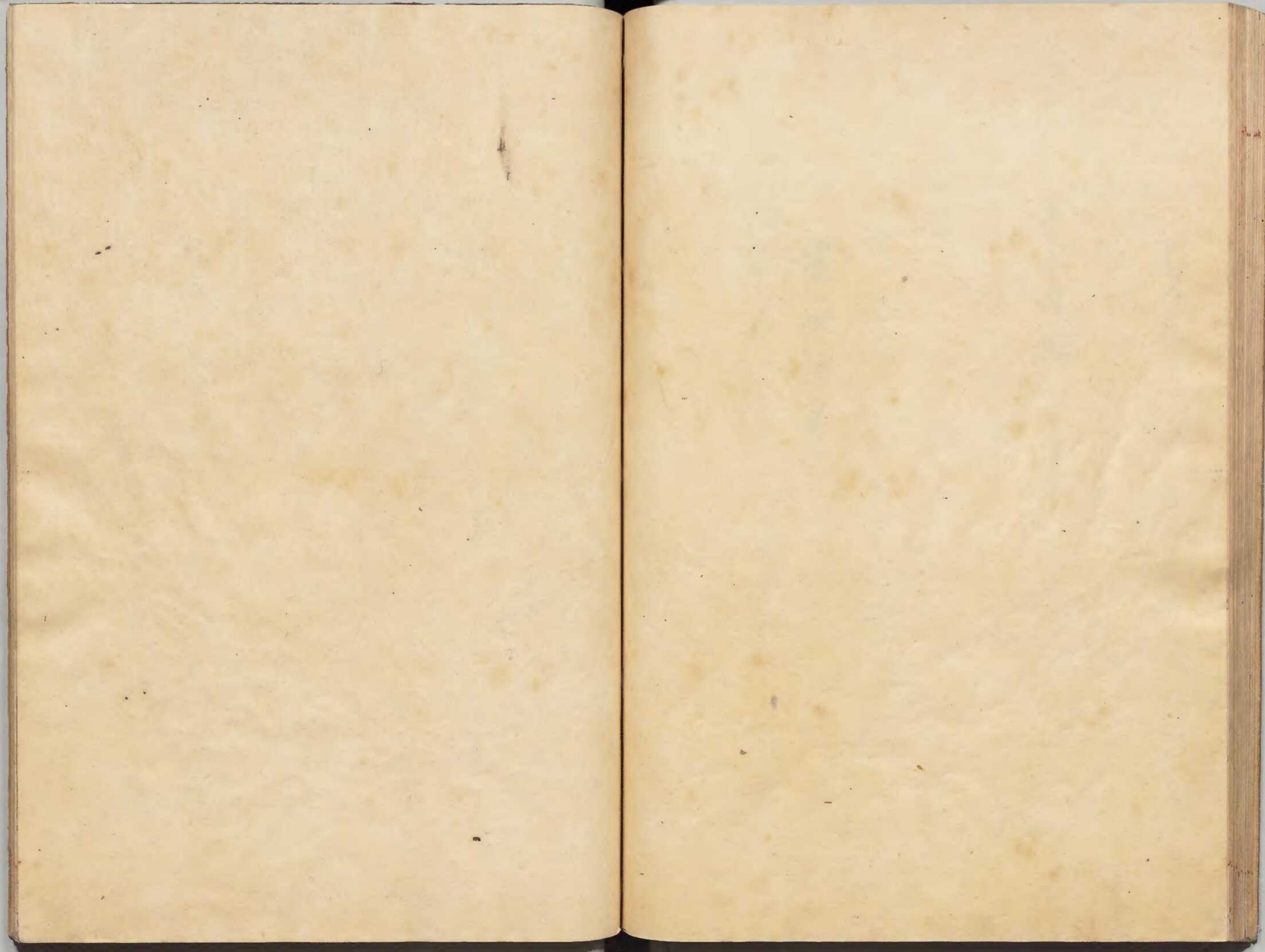
昌輝

理之清 生國茂翁

寛永十三年

將軍家へ召出され侍の命をまじり

家紋割菱





● 信のぶ道ちか

勤しん者しや清せい門もん

服ふく部ぶ玄げん番ばん組ぐみ一いち房ぶどう一いち歩ふ代だい水みづななと

勤しんむむ玄げん後ご 鈞きん命めい一いち房ぶどう一いち歩ふ代だい水みづななと

御ご花はなななりりととれれふふ

仁に科か

氏うぢ田でんのの末すえ流りゅう

寛永十一年病<sup>い</sup>死<sup>し</sup>

信<sup>のぶ</sup>膳<sup>だん</sup>

勅<sup>ちく</sup>之<sup>の</sup>丞<sup>じやう</sup>

將軍家小次<sup>せうじ</sup>之<sup>の</sup>子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>父<sup>ちち</sup>信<sup>のぶ</sup>道<sup>みち</sup>が遺<sup>い</sup>跡<sup>せき</sup>と  
川<sup>か</sup>津<sup>つ</sup>切<sup>き</sup>米<sup>まい</sup>な<sup>な</sup>ら<sup>ら</sup>び小<sup>せう</sup>枝<sup>え</sup>持<sup>もち</sup>方<sup>かた</sup>と<sup>と</sup>好<sup>この</sup>願<sup>ねん</sup>と

家<sup>いへ</sup>紋<sup>もん</sup>割<sup>わり</sup>菱<sup>びし</sup>

駒井こまゐ

新羅三郎義光六世乃孫伴祿也  
信政が三男信盛駒井の孫よ伴として  
駒井と称し是駒井代祖なり

● 政氏まさうぢ

言白舟 唐主と号し 生国甲斐  
家傳よりいづくに盛十一代の後胤なり

政 直

右京

生國同前

武田信玄より討てて小田原北さへ源次

乃城より居る

甲州没落の後

東照大権現より討ててそのまゝ

天正十一年閏正月十日領地を給ふ

御朱印あり

文禄四年五十四歳より病死 法名

全可

親 直

右京

生國同前

名徳院殿より討ててそのまゝ

慶長十九年元和元年大坂の陣より

供奉して敵討ちとる領地北加増

を降領とす其時御使者となる

寛永八年四月十五日病死ひかり法名宗節しゅうせつ

親昌ちかよし

右京 生國なまくに茂翁しげおきな

元和六年三月三日初めく

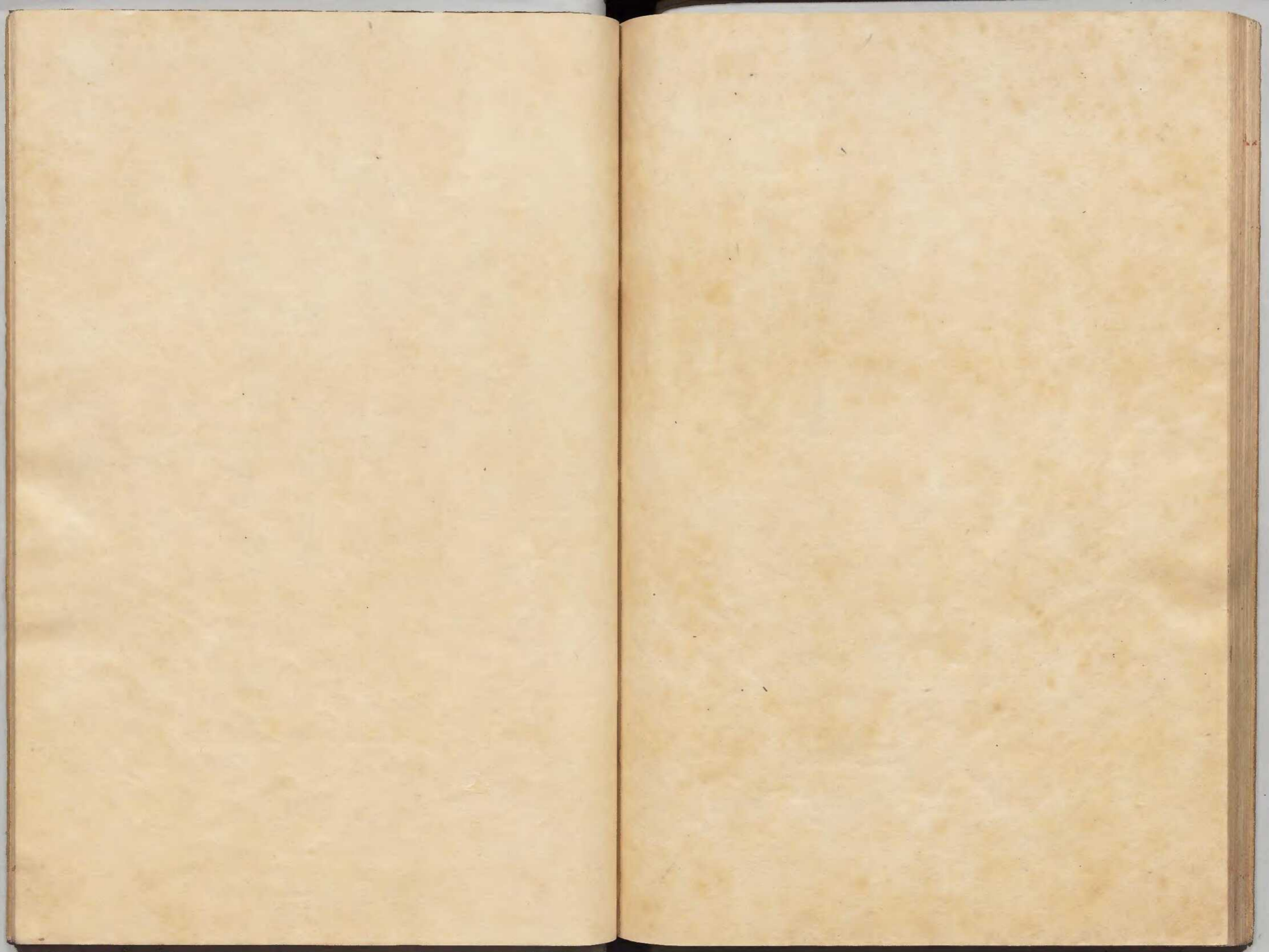
台徳院殿と浄福じやうふく一いちなる

寛永七年十月廿八日浄じやう小姓せうじやうとなりく

台徳院殿たいとくゐんへへ浄じやう久くなる

同九年正月二日浄書院じやうしょゐんと勤きんむ

家いへ紋もん割わり菱ひし井い柵さく



系なご

肥前ひぜん

生國同前

● 信為のぶみ

筑後ちくご

生國甲斐かひ

武田信虎たけだのぶとら 信玄のぶひら 父子ふし 一ひと 行ゆき 不ふ

駒井こまゐ

甲別 積翠寺の城代

系まが

宮内 恒取同お

勝英かつひ

肥前 生國同お 恒取同お

昌長まさなが

宮内 次郎古清門 恒取同お

武田信玄勝頼父子は長久にて甲別没落の後

東照大指現より長久なる

天正十二年 長久手よおわく首級は

同十八年小田原陣の時岩付城へ後  
向して敵と討とりうる首級は

台徳院殿へ送るなる病あつた



と謝して老年よおろそかまゝに休居す  
七十九歳山に病死 法名 詢之

昌保

次郎右衛門尉

名徳院殿一法之

大坂沙陣の借年一首級と仰る

寛永十五年中風ふりて五十五歳

して死す

長伴

清左衛門

名徳院殿

將軍家より引之

長保

孫七郎

寛永十三年

將軍家へ石出され孫湯と

同十五年しごと御番を勤む

昌信まさのぶ

次郎右衛門

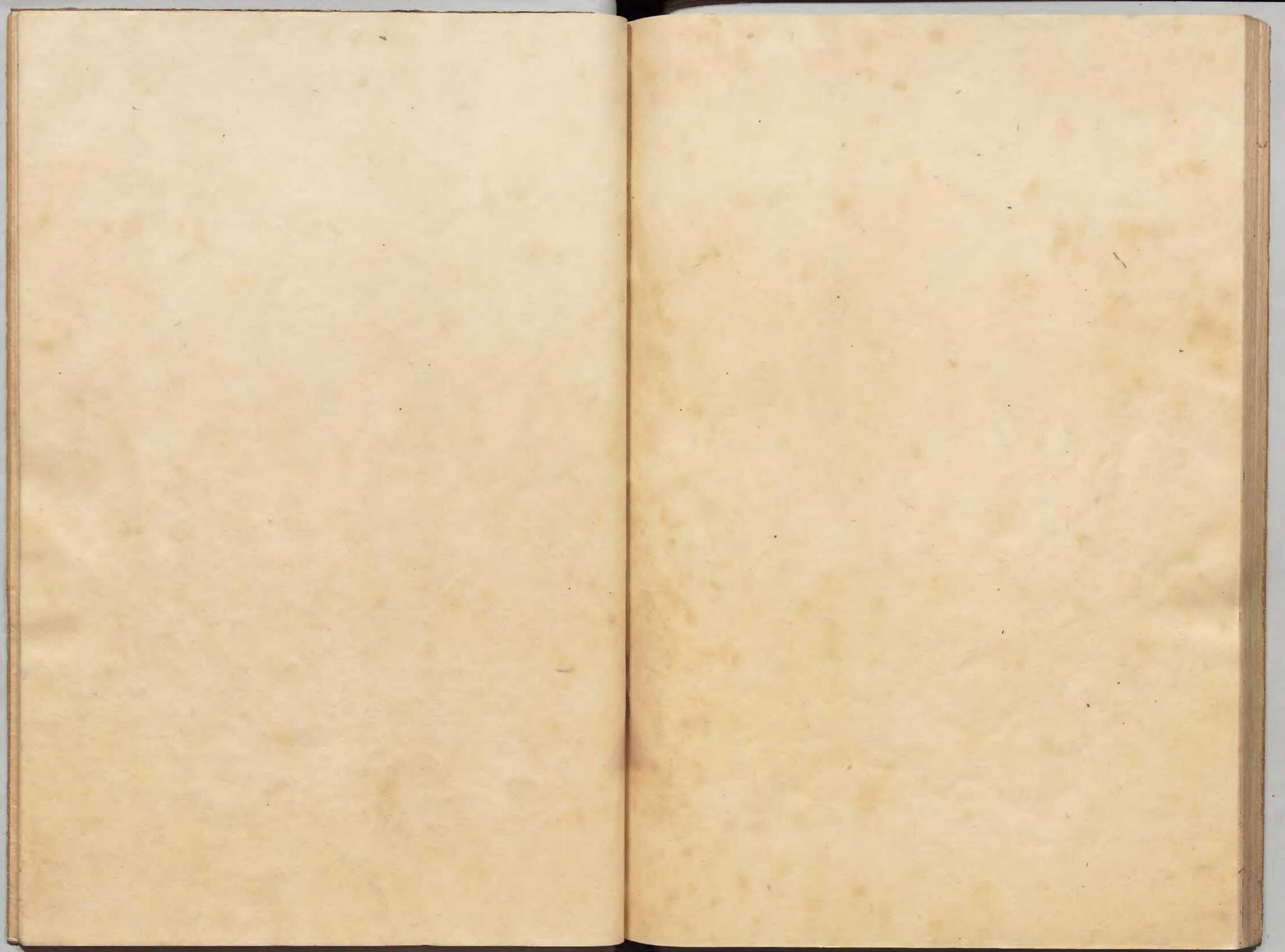
寛永二年

將軍家より御之ごとまはる

同四年御小姓組こしやうぐみ乃御番を勤む

同九年 釣命つりのみこと小こと御書院ごしやういん番とある

家紋割菱井柳いんげんわりびしり



● 勝盛

常刀

生玉甲斐

駒井

武田伊豫守信政が三男信盛の後  
胤なるに信玄より以て之を甲列駒井  
乃庄と領地を是より分ちて駒井と  
称號す

武田信玄よりいふ

天正十年石出さねとく

大指現より律久しくま川子

七十三歳よりて病死

勝正

右近 生國同お

大指現をねーなる

文禄四年勝正伏見北城者よせり

時より石部よりて病死 歳五十三

勝重

孫四郎 生國同お

天文長四年

大指現と孫一なる翌年

名徳院殿へ川久なる

同年共田陣の時勝重供年之後大

坂より赴きたまふ事小姓組とあて

御供<sup>ごとも</sup>り候<sup>こう</sup>ど<sup>ご</sup>王<sup>お</sup>後<sup>ご</sup>浪人<sup>なみのり</sup>と<sup>な</sup>る<sup>なり</sup>

大坂<sup>おおさか</sup>と<sup>と</sup>度<sup>たび</sup>此<sup>こゝ</sup>津陣<sup>つじん</sup>と<sup>と</sup>勤<sup>こゝろ</sup>む<sup>む</sup>所<sup>ところ</sup>元<sup>もと</sup>和<sup>わ</sup>八<sup>はち</sup>年<sup>ねん</sup>

石<sup>いし</sup>出<sup>で</sup>る<sup>る</sup>

名<sup>な</sup>徳<sup>とく</sup>院<sup>いん</sup>殿<sup>でん</sup>一<sup>いち</sup>川<sup>がわ</sup>と<sup>と</sup>く<sup>く</sup>ま<sup>ま</sup>川<sup>がわ</sup>子<sup>こ</sup>

寛永元年

将軍家と<sup>と</sup>許<sup>ゆる</sup>す

勝定<sup>かつさだ</sup>

太郎左衛門

生國<sup>なまくに</sup>武苑<sup>ぶゑん</sup>

寛永七年

将軍家を<sup>を</sup>許<sup>ゆる</sup>す

家<sup>いへ</sup>紋<sup>もん</sup>割<sup>わり</sup>菱<sup>ひし</sup>井<sup>い</sup>柳<sup>やなぎ</sup>

